

自然

鶴岡 涼 福島県立盲学校 十七歳

私はよくホームルームの時間に信夫山に登ります。歩道から山に入り、土の匂い、葉音を楽しみながら登っていくのです。みんなとてもリラックスしていて、どんどん仲良くなっていくのを肌で感じました。

また、登山を楽しむ方や、神社にお参りに来る方たちに「こんにちは。」と声をかけたり、「どこから来たの。」と声をかけられることもあったりしました。

嫌なことがあったときや疲れたときには、自然と草や木、花、山をぼんやりと見ています。なぜだか見ていると、おじいちゃんやおばあちゃんと話していたり、励まされているような感覚になるのです。それは、誰しもがもっている心の実家が「自然」だからだと思うのです。だからこそ、山道で出会った人々は、まるでお盆に親せきが実家に集まって、おじいちゃん、おばあちゃんの周りにぎやかに話すように、話しかけ合うのだと思います。

人と人のつながりを築き、苦しいときや辛いときには、慰め癒してくれる自然に感謝し、そして守っていききたいと思います。そしていつも変わらず私たちをどんなところから見守ってくれる、第二の実家、第二の祖父母へ今日、これからも笑顔で言いたいと思います。

「ただいま。」